

㊦ 日仏国交 150 周年記念 ㊦

ロートレックの世界

ロートレックとモンマルトルの風車

Henri de Toulouse-Lautrec and Moulin de la Galette



ムーラン・ドゥ・ラ・ギャレットで踊る人々 ©Le Vieux Montmartre
Bal du Moulin de la Galette - Collection Musée de Montmartre

TEXT/PHOTO: 高橋真美 MAMI TAKAHASHI

ロートレックが描いた人気歌手、イヴェット・ジルベール
"Yvette Guilbert" (1894) ©Musée Toulouse-Lautrec, Albi, Tarn, France



ロートレックが描いた人気歌手、イヴェット・ジルベール
"Yvette Guilbert saluant le public" (1894) ©Musée Toulouse-Lautrec, Albi, Tarn, France



アルビのトゥールーズ・ロートレック美術館
©Tarn Tourist Board

ムーラン・ドゥ・ラ・ギャレットで談話するロートレック
"Lautrec et ses amis au Moulin de la Galette"
(1887) ©Musée Toulouse-Lautrec, Albi, Tarn, France



生誕地アルビの風景 ©Tarn Tourist Board



Part.1 ロートレックの生涯

フランスを代表する画家、 アンリ・ドウ・トゥールーズ・ロートレック

フランス南西部のアルビ。画家アンリ・ドウ・トゥールーズ・ロートレックは、この町で生まれた。川の対岸から眺める美しい景色、そこには現在も中世の町並みが残っている。アルビの旧市街には、1000を超えるロートレックの作品を所蔵する美術館があり、フランスを代表する画家の遺産を保存している。

ロートレックは貴族の家庭に生まれた。両親は、いとこ同士だった。ロートレックが生まれつき病弱なのは、近親者同士の結婚だと言われている。

身体的なハンディーがあったロートレックだが、デッサンの才能に恵まれていた。「手が疲れるまで絵を描くんだ」と小さなロートレックは繰り返した。題材は、日常生活。親族や使用人のポートレートのほか、馬を好んで描いていた。

ロートレックは、18歳でパリに上京。アトリエで絵を学び、ゴッホらと親交を深める。次第に、ロートレックの足は、学術的なアトリエには向かわず、モンマルトルの歓楽街に惹かれていく。そこに部屋を借り、キャバレーやダンスホールに頻繁に出入りする。そこで数々のモデルに出会った。

アトリエ仲間のゴッホとロートレックが共通して題材にしたもののひとつが、後にご紹介する「ムーラン・ドゥ・ラ・ギャレット」。風車を改造したダンスホールである。この酒場で、友人たちと談笑するロートレック

の写真をご覧いただきたい。葉巻をくわえ、ワインを分かち合うロートレック。このころから、彼はアトリエに行かなくなる。

この写真から数年間、ロートレックは精力的に作品を制作した。ムーラン・ルージュやル・ティバン・ジャポネなどのキャバレー用の版画やポスターなど。あわせて、版画400点、31のポスターを残している。「世紀末の女神」といわれた人気歌手、イヴェット・ジルベールがロートレックのお気に入りだった。黒く長い手袋がシンボルの歌手のジェスチャーに惹かれ、多くのデッサンやポスターの下絵を描いている。

モンマルトルのシンボルである風車がひとつひとつ姿を消し、キャバレーやダンスホールに生まれ変わった「ムーラン・ドゥ・ラ・ギャレット」も下火になっていく19世紀末。ロートレックの健康状態が悪化していく。多くの作品を手がけていたため夜更かしが続き、アルコールが身体を蝕みはじめる。

1901年、ロートレックはモンマルトルを跡にして母親の元へ戻っていく。死が訪れる間際まで、絵筆を持ち続けた画家ロートレック。身内に囲まれるなか短い生涯を閉じる。享年37歳。

画家亡き後、モンマルトルの風景が変わっていく。ロートレックが頻繁に通った、「ムーラン・ドゥ・ラ・ギャレット」、そして風車も時代の流れとともに消滅の危機にさらされていく。

モンマルトル唯一のブドウ畑



ロートレックのポスターが並ぶ土産屋



画家が集まるテルトル広場



風車が並ぶモンマルトル (1845年) ©Le Vieux Montmartre
Moulins de Montmartre - Collection Musée de Montmartre



サクレクール寺院



Part.2 麗しきモンマルトル

モンマルトルの変遷

パリでもっとも観光客に人気がある場所は、ノートルダム寺院、エッフェル塔、そしてモンマルトルの丘。222段の階段をのぼると、丘の上からパリが一望できる。画家が集まるテルトル広場、レストラン、ポストカードを売る土産屋。いつ行っても観光客で賑わっている。

かつて、ここはブドウ畑が広がり、風車が並ぶ、のどかな田園地帯だった。

モンマルトルのブドウ畑は、パリで最も古い。中世より前に畑は存在しており、小さなものは100mほど、大きな畑で2haほどだった。16世紀、大多数の住民はブドウ栽培農家だった。変化が訪れたのは18世紀。不動産高騰で農家が立ち去り、ブドウ畑は姿を消してしまふ。

パリ市が2000本のブドウの苗を植えたのは、1932年のこと。画家たちが

寄付を持ち寄り、地元の嘆願によって、モンマルトルにブドウ畑が息を吹き返した。毎年、秋になるとブドウの収穫祭が盛大に行われる。

モンマルトルの丘に吹きつける風は強かった。16世紀ごろから風車がつくられ、多い時は14基の風車が並んでいた。粉を挽くだけでなく、ブドウを压榨したり、工場の石膏や小石を砕いたりするためにも利用された。

ブドウ畑と同じように18世紀中ごろから、風車がひとつひとつ消えていく。1875年の新聞記事を読むと、当時残っていたのは3つ。現在も残っているのは2つの風車、「ムーラン・ドゥ・ラ・ギャレット」だけである。前述したように、これらの風車は、本来の用途ではなく、ダンスホールに生まれ代わって生き残った。

「ムーラン・ドゥ・ラ・ギャレット」をはじめ、モンマルトルには多くの酒場があった。18世紀中ごろ、モンマルトルには165軒の店があり、そのうち134軒がキャバレーだった。当時、モンマルトル村は、パリに課される酒税の対象外にあった。酒を安く飲ませることができたため、多くの酒場ができた。

静かな田園風景は、観光地、そして夜の歓楽街へと姿を変えていった。都会の喧騒を逃れて集まってきた画家たちも、やがてモンマルトルからモンパルナスへと居を移していく。

1717年にできた風車、ラデ



ムーラン・ドゥ・ラ・ギャレットで踊る人々 ©Le Vieux Montmartre
Bal du Moulin de la Galette - Collection Musée de Montmartre



【参考資料】

"Les Moulins de Montmartre et leurs meuniers" (Lydia MAILLARD et André MAILLARD, Edition « Le Vieux Montmartre », 1981)

Paris Montmartre (N 13-65, 2006)
Le courrier français, les bals de Paris (1886)

La Butte de Montmartre
(www.montmartre.net.com)
Syndicat d'initiative de Montmartre
(www.monmartre-guide.com)

【取材協力】

Musée Montmartre
Musée Toulouse-Lautrec
Restaurant le Moulin de la Galette



レストラン「ムーラン・ドゥ・ラ・ギャレット」



1622年にできた風車、ブリュット・ファン

Part.3 Moulin de la Galette

ムーラン・ドゥ・ラ・ギャレット

モンマルトルに生き残る2つの風車は、時代の変遷を見守ってきた。かつて、それぞれは別の名前を持っていて、粉を挽くという風車本来の役割を果たしていた。「ムーラン・ドゥ・ラ・ギャレット」という名前になったのは19世紀後半。2つの風車、ウサギなどの家畜小屋、ダンスホール、キャバレー、庭、それら全体を指してこう呼ばれていた。

丘をのぼっていくと目に飛び込んでくる風車が、1622年に建てられたブリュット・ファン。粉屋の息子が建てた風車だ。その後、所有者が次々と変わり、悲しいもめごとを目にするこももあった。

50メートルほど坂をのぼるともうひとつの風車がある。1717年にできたラデ。ブリュット・ファンを借りていた粉屋が建設した。全盛期をフル稼働して70年後、デュプレ一家の手に渡ると風車の運命が変わりはじめた。

初めは、牛乳とパンがセットで売られ、その粉を挽くために風車が使われた。ところが、1814年のプロシア侵攻後、経済状況が悪化する。デュプレ一家は、牛乳の代わりにワインを売るようになり、風車ラデをキャバレーに変えた。客は、ワインとパンに舌鼓をうち、ボルカを踊って楽しんだ。

1879年、5代目のデュプレが2つの風車を引き継ぐ。ブリュット・ファンもダンスホールに生まれ変わり、本来の役目を終える。風車は、翼の動かすことを止め、出入りする人々を見つめてきた。

「ムーラン・ドゥ・ラ・ギャレット」と名づけられた風車のダンスホールは、多くの画家が作品を残している。ロートレックやゴッホのほかに、ピカソ、ユトリロ、ルノワール。彼らは、ダンスホールに頻繁に通って飲食し、踊り、モデルを探した。

丘の下にできた赤い風車のキャバレーが客を増やしていく一方で、本物の風車がシンボルの「ムーラン・ドゥ・ラ・ギャレット」は次第に客足が遠のき、消滅の危機にさらされる。ミュージック・ホール、テレビ局のスタジオなどに姿をかえ、レストランとなって現在に至る。風車そのものは、地元の有志たちに守られ、修復された。

この2つの風車の歴史はまだ続く。これからも、丘の上からモンマルトルを見守り続けるだろう。